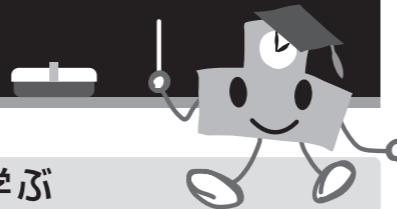


ソーラーパネルを利用し、発達段階に合わせた内容で環境を学習。

環境教育にソーラーパネルを使い、学年ごとに楽しみながらテーマを設定。発電量が見えることでエコを実感している。



内容 学年ごとにテーマをしづら 環境について学ぶ

本校では、平成17年12月にソーラーパネルが設置された。発電能力は約10kw、一般家庭の使用電力の約3戸分にあたる。これにより1年間に約5tの二酸化炭素を減らすことができる。

そのソーラーパネルを利用し、生活科や総合的な学習の時間を使って、全校で環境について学習している。以下が各学年の学習内容である。

1年生 太陽光発電ってなあに

本校の太陽光発電システムの存在を知る。ソーラーカーを利用し、光で電気を作ることができることを学んでいる。

2年生 太陽の光で遊ぼう

ソーラーカーを利用し、光の当たり方によって動きが変わることや、太陽光施設が生み出す電力の大きさを学んでいる。

3年生 すごいぞ!ソーラーパワー

パラボラアンテナ状のものの内側に銀紙を貼った「ソーラークッカー」を使い、温めたところへ卵を入れて焼いたり、ポップコーンを作ったりする実験を行い、作ったものを試食している。日光による熱をエネルギーとして利用できることに気付くとともに、ソーラーエネルギーのようなクリーンエネルギーに対する興味や関心を高めている。

4年生 太陽光発電のしくみ

ソーラーパネルによる発電量は天候によって違うことがある事を、1階の発電量パネルによって確認している。電気や光など、理科で学んだ知識を生かして、太陽光発電による発電量や働きと気象との関連が理解できている。

5年生 太陽光発電をマスターしよう

4年生までの環境に関する学習内容を生かし、省エネの大切さや、学校への太陽光発電設置の意図などについて考えている。

6年生 ストップ ザ 温暖化

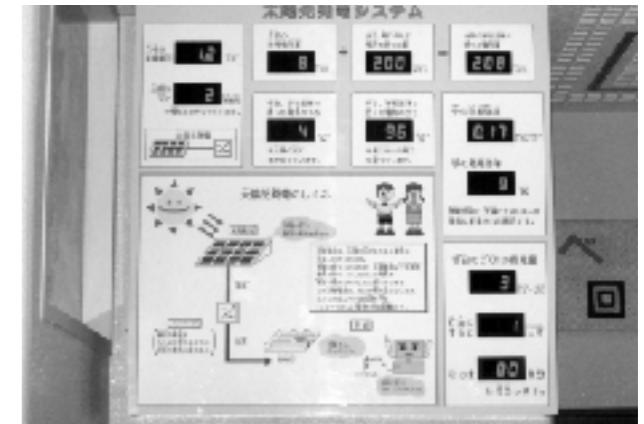
5、6年生は、さとらんどで夏の間に電気を使わない雪の冷房のしくみを学んでいる。その後6年生は、未来に向けた資源やエネルギーの有効活用について考えている。



校舎と屋上のソーラーパネル

効果 結果が目に見えることで関心を高め 日常的な取組に発展

校舎内には、発電状態を表示するモニターが設置されている。「今日はいくつの教室分の電気がソーラーパネルで発電されているか」というように、毎日の発電量が一目でわかるようになっている。このモニターは児童にもわかりやすく、子どもも大変興味をもっているようである。実際に目で見て理解することで身近に感じる事ができ、節電への意識が高まっている。これによって、日常生活の中で「使っていない教室の電気は消そう」という行動が自然に見られるようになっており、本校の環境学習の目標である「周りから、自分から、できることから!」へ近づいている。



太陽光発電システムの表示パネル
(電力量や照度、CO₂の削減量を表示)



屋上に設置されたソーラーパネル



広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

ソーラーパネルは市によって設置・管理されているので、費用や管理の面で大きな苦労はありません。また、学校内で地球温暖化について学び、家庭でも取組めるような知識を身につけてほしいと考えています。